荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -
地域医療連携だより
小岱

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

第19号（平成23年10月発行）

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指す。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える急性期医療を目指し、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。

新任医師紹介

画像診断・治療科　厚地　修太朗

放射線治療科　仙波　明子

荒尾市民病院では、平成23年7月1日より従来の放射線科を放射線治療科と画像診断・治療科に変更いたしました。

放射線治療科は、主にがんの放射線治療を専門に行う部門で、治療計画、内容の検討（精度管理）、放射線治療の実施、治療中や治療後の診察などを行っています。平成24年4月には、放射線治療センターの開設を予定しており、より精度の高い放射線治療が提供できると考えています。

画像診断・治療科は、CT・MRI・RIなどの検査の施行・画像の読影を行い、依頼医へ報告を行うことを主な業務としています。常勤医を迎えたことで、より的確な撮影方法の選択が可能となり、また読影に関しては、必要に応じて、熊本大学連携遠隔画像診断センターと連携して行っています。

尿管結石による疼痛発症の特徴について

泌尿器科部長　浅山　縁（気象予報士）

９月はじめに四国に上陸した台風１２号は、紀伊半島の山間部で夥しい量の雨を降らし、甚大な被害をもたらしました。台風は自然災害を起こすものと捉えられていますが、実は台風がもたらす疾患もあります。その代表的なもののひとつが、尿管結石です。

尿管結石は、泌尿器科の中では救急患者が最も多い疾患です。激しい痛みが突然に発症することが多いため、患者さんは大きな不安感も持って来院されます。結石は腎内で発生し細い尿管にひっかかり尿の流れを妨げるため痛みを起こします。結石を形成する成分の中で最も多いのはシュウ酸カルシウムですが、この結石は動物性脂質の摂取が多くなるにつれて発症率の上昇がみられます。日本人の食生活が以前より欧米化している現在、尿管結石の発症は避けられないと思われます。

尿管結石の疼痛（仙痛）は、尿管が結石を排出しようとするために起こるとされています。このとき腎では尿の停滞があり、腎の被膜が伸展される痛みもよく起こります。そのため多くの場合、患者さんは腹部（石のある場所）と側背部（腎部）の2カ所を痛がられます。この痛みの発症は天気の状態と関係があるとされています。疾患と気象の関係を研究する「生気象学」の文献には、心臓や呼吸器の疾患などとともに、尿管結石の疼痛が寒冷前線の通過時などに増加することが記されています。このような疾患を「気象病」と呼ぶこともあります。実際に当院を受診された患者さんについて、尿管結石の疼痛の発症と気象の状態との関係を調べてみました。

当院では１年間におよそ８０人の方が、尿管結石の疼痛のために受診されています。そのうち男性は8割弱を占めています(図１)。季節では春から夏にかけて多いようです（図２）。発症の時間は未明から朝にかけて最も多く、次が夜間で、昼間は比較的少ないようです（図３）。急な気象の変化をもたらす寒冷前線や台風と尿管結石の疼痛発症との関連について調べてみました。患者さんへの問診によって疼痛発症の時間を確認し、その時間の気象状態を過去の天気図などで把握・確認しました。寒冷前線の影響は、前線通過の前後それぞれ２４時間の計４８時間程度とし、台風は個々の台風で影響が異なるために、影響した時間は個々の台風の規模とコースから２４～７２時間としました、寒冷前線と台風の影響があった時間内の尿管結石の疼痛の発症を調査し、それぞれの気象状態での尿管結石の疼痛の発症率を算出してみました。

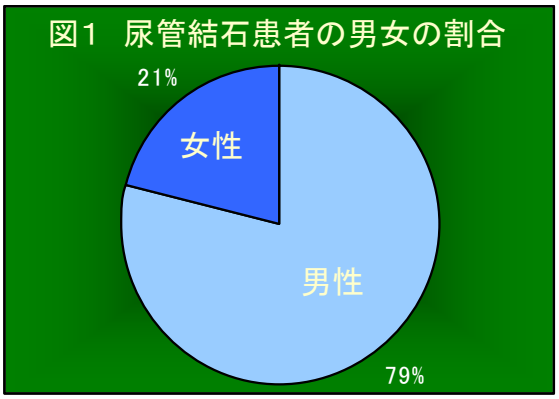


図１　尿管結石患者の男女の割合

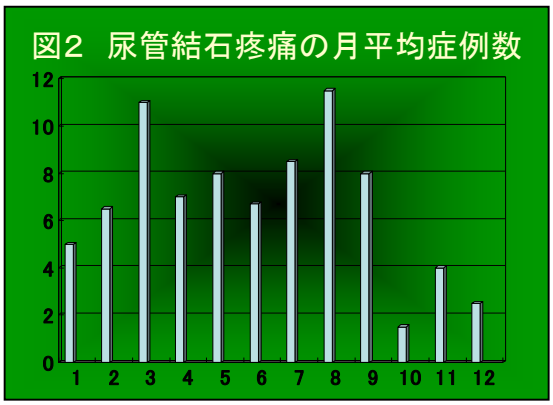


図２　尿管結石疼痛の月平均症例数

前線通過や台風接近通過がない“静穏時”の１日平均の発症率は０．１６７例／日でしたが、前線通過では０．３４６、台風では０．４６５でした(図４)。これは、前線通過で静穏時の２．０７倍、台風では２．７８倍に増加していることになります。寒冷前線や台風では急な気圧の低下とその後の上昇があります。この気圧の急な変動が、尿路に結石を持っているひとの尿管の平滑筋の収縮に影響するようです。結石の移動時などに強い尿管の攣縮を起こし、痛みを起こしていると考えられています。

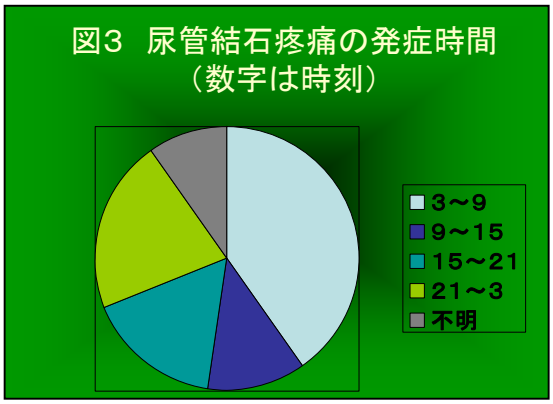
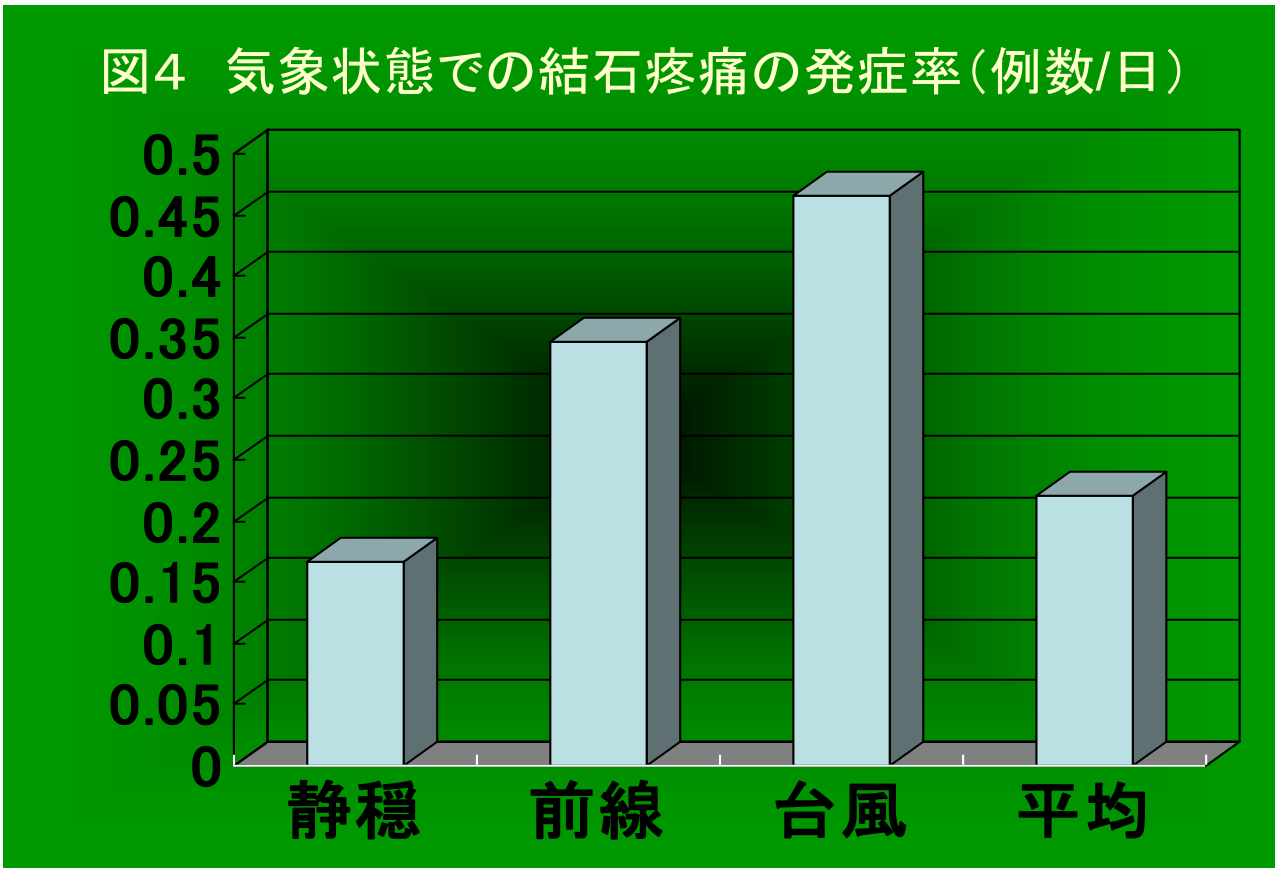


図３　尿管結石疼痛の発症時間
（数字は時刻）

このように尿管結石の疼痛の発症には特徴があります。気象の状態を天気予報などで知っておくことで、尿管結石の発症の多い少ないという予測はある程度可能と思われます。結石は長い尿管を下降しながら何度も痛みを引き起こすことがあり、また、再発しやすい疾患でもあります。患者さんにとっては、痛みを起こしやすい気象状態や時間を知っておくことも必要かと思います。



荒尾市民病院とがん治療連携

平成22年度診療報酬改定で、がん治療連携に係る診療報酬が算定可能となりました。本院では、**「がん治療連携計画策定料」**の施設基準申請を行いました。対象は、当初5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝がん）となっておりましたが、前立腺がん、婦人科がんも対象となりました。がん患者さん及び家族の方が安心して地域で治療が受けられるように**地域連携診療計画（がん診療連携パス『私のカルテ』）**を共有して診療を行っていきたいと思います。

現在、本院と地域連携診療計画を共有し、「がん治療連携指導料」の施設基準の申請を23の医療機関にいただいております。施設基準の申請には、お互いの病院で申請の必要がありますので、がん治療連携指導料の申請を予定される場合には相談支援センターまでご連絡下さい。

禁煙外来のご案内

2006年4月より禁煙治療が保険適用となりました。下の4条件をすべて満たして医師が必要と認めた場合、一定期間の禁煙治療（外来診療のみ）に保険が使用で来ます。

1. ニコチン依存症に係るスクリーニングテスト（TDS）で、ニコチン依存症と診断されたものであること。
2. ブリンクマン指数（＝1日の喫煙本数×喫煙年数）が200以上の者であること。
3. 直ちに禁煙することを希望している患者であること。
4. 「禁煙治療のための標準手順書」に則った禁煙治療について説明を受け、当該治療を受けることを文書により同意している者であること。

当院では、下記の要項にて禁煙外来を実施しております。ご利用を希望される際には、通常の紹介同様、診療情報提供書を相談支援センターにFAXしていただきますと、予約調整を致します。

記

1. 診察日　毎週月曜～金曜　10:30～12:00　※完全予約制

2. ところ　内科外来

大型機器（CT・MRI）の共同利用のご案内

放射線技術科技師長　堺　峰崇

平素より連携施設様におかれましては当院の大型機器共同利用にご協力頂き厚く御礼申し上げます。今回はこの紙面をお借りして簡単に大型機器のご紹介をさせていただきます。

当院には64列CT　16列CT　1.5テスラMRI（いずれもPhilips社製）と高水準な医療機器が装備されており、高精細で高画質な画像はもちろんですが、特にCTにおきましては、患者さまの体型と検査部位の体の厚さに応じて、放射線の線量を自動で調節する自動被ばく低減システムを搭載し、患者さまの医療検査被曝を最小限に抑えて検査することができます。そして上記各装置は、メーカと年に3回の保守点検契約により機器の精度管理の維持にも努めており、安全で安心して検査が受けられるようにメンテナンスをしております。　また7月より熊本大学医局から画像診断治療医の赴任により、より精密で有用な診断価値の高い撮像法の追加撮影や、読影レポートを早期にご依頼医様にご提供できる体制が整いました。この当院で撮影した画像と読影レポートは当院の画像サーバーに過去画像として保存（CT2004年　MRI2005年以降の撮影画像）され、今後ご要望があればこれらの医用画像情報をCDでお渡しすることが可能であり、当院を連携施設様の医用画像の外部保存施設としてご活用していただければと存じます。必要時には相談支援センターまでご連絡下さい。

また、医療事故対策として、CT・MRIにおける造影剤を使用した検査につきましては、副作用の発生の可能性（CT約3%　MRI約1%）がありますが、問診と副作用履歴の管理を厳重に行い、万一副作用発生時には画像診断治療医や救急医をはじめ訓練された看護師・診療放射線技師により対応させていただきます。

今後ともご依頼医様に安心して大型機器検査のご紹介をしていただけるようにスタッフ一同努力して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

腹部の3D－CT

放射線治療センターのお知らせ

荒尾市民病院では、平成２４年４月に放射線治療センターの開設に向けた準備を進めています。現在、建物がほぼ完成し、今後機器の搬入を行い、医療装置の調整などを行っていきます。次回の小岱で詳しく紹介させて頂きます。

編　集　後　記

昨年の今頃は、病院機能評価Ver6の受審前で必死になって準備作業をしていました。あれから間もなく1年・・・3月には、予想もつかない大地震が起こりました。しかし、世界中で支援の輪が広がり、人間の絆の深さを再認識しました。

私の祖母はお寺の娘で、いつも「明日ありと思う心の仇桜」と教えていたと聞いています。意味は「明日はどうなるかわからない。今日という日の大切さ」を言った言葉です。

日々の生活に感謝し精一杯生き、そして、予測のつかない事態にも地域の皆様と協力し、医療・福祉の連携の輪を広げていきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

相談支援センター　　村上